

三河記

軍書

十二  
止

往

往

御家

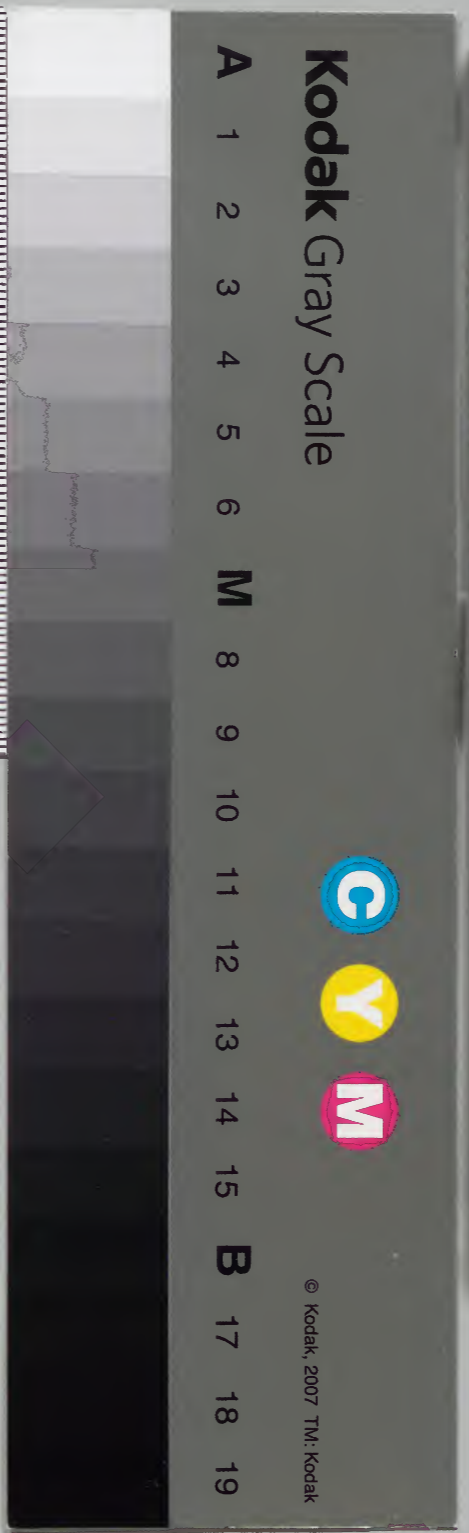
庫	文	閣	内
頁		三三五九	和
函		一三冊	書
五架		號	類

148  
内閣

第二

内閣文庫	
番號	和 33059
冊數	12 ( 12 )
函號	148 76

共十二



松明法之卷



雨をい  
川の事



せいの  
武女

松のふ  
松のふ

を  
分

ふんせ

三河



右  
左

細抹を  
行の角

二  
行の

口より  
紙より

一 同左口の方の事

りし、十文

念んせ

或文

右りまるとしりまらうそし日

ト又あるうさる左の念んせと今て剪

りし所なきいまう極く秘法あり

一 同右の方の事

念んせ 八拾目

ゆ

七文

せ

麻巾の灰 七文

念んせ 七文

も

拾文

念んせ 或文 秘法あり

右に流れる粉ふく竹の筒へて行

の和とくくうううててててて

てま念んせを油とく口くわらう

一 同左の方の事

念んせ 或文

ゆ

七文

せ

或文

ゆ

七文

い

或文

右に流れる粉ふく竹の筒へて行

竹の筒へこすのしるしとて用  
拵の月々しき方の事

急ぐし 拾月 山し 拾月分

せしめ 拾八分 麻糸の灰 三二分

つえ松しん 三二分 糸すみのえ 三二分

牛の糞しん 三二分

右細糸しん 糊麻のしるしを移り合

の筒へつ右回し

一 卯花月夜しんの事

急ぐし 百日 せしめ 九二分

ゆましん 日換しん 麻の灰 拾二分

松しん 六分 山し 三二分

川茶しん 三二分 糸すみのえ 六分

ゆましん 拾二分

右細糸しん の油を練合竹の筒

へ入右回し

一 花の嘴しんの事

塩硝しん 七五分 生腦しん 拾二分

硫黄

拾文

松脂

壹文

麻木灰

毛久佐

六文

消墨

三百目

唐土

四文

右細糸とて胡麻の油と練合布とを  
夾竹の筒へ入右目

松木の事

世松の核のものと細くして硫黄とを  
和し山にまき申へ合松の事入車ひし  
しは松付の内歌の山をへりけこむしを

作松木の事

苦竹の小竹と濃志ぶのあり、濃志のあり  
北川へ流しお十日斗さるは事能なる  
赤ひし子つひのちと松木の油とを  
作り火をえりぬる  
松の事作り火矢の事

陳之川轉世討のつ松の事と持へし  
の役ふらあさす印者の武士大音、竊盜の  
役たけす中一乃筋よくんえりし

つづらぬ得る一才二人教ふ處よりとて  
すべし之扱進風向風吹付を先つをあらして  
習ふ

常武の扱ゆる松木と細く作りたる  
後高んて下へ外を竹をたす是すたる  
作りりたるよりか事なり  
樟とこ海より作りたる作りたる  
なり作りたるなり是と又里扱ゆる  
松の皮を厚く一才硫黄とせり

一才三魚人種なり作りたる扱ゆる  
作りたるなり  
水扱ゆる事

- 明礬石 五分 鼠糞 五分
- 松脂 五分 艾葉 五分
- 生腦 五分 塩硝 五分
- 膽礬 五分 麻灰 五分

右酒糸作り竹筒に送りたる  
糸作り作りりたる風作りたる

あり火に似成き言ふ事いふのたふに似成  
ふのいふのふとふ物ふふ無成

一 白の内みねの事

長子にあり経の松板と刻先と硫黄と少  
つありおと先と物見松のつて寤るお  
おと先と寤るおと内とつてつて月と

一 手ね松の事

しつて本と本綿とつて松暗とぬりやし  
つてつてつて松のつてつてつてつてつて

一 松のつてつてつてつてつてつてつてつて

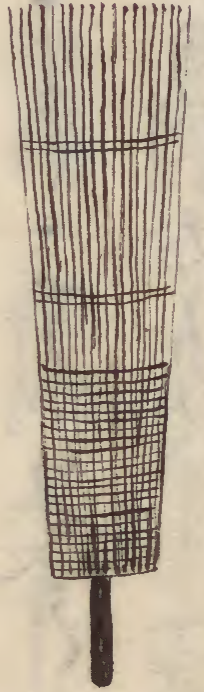
つてつて

一 投續松の事

竹とつてつてつてつてつてつてつてつて  
松のつてつてつてつてつてつてつてつて  
つてつてつてつてつてつてつてつてつて  
つてつてつてつてつてつてつてつてつて  
つてつてつてつてつてつてつてつてつて

つてつて

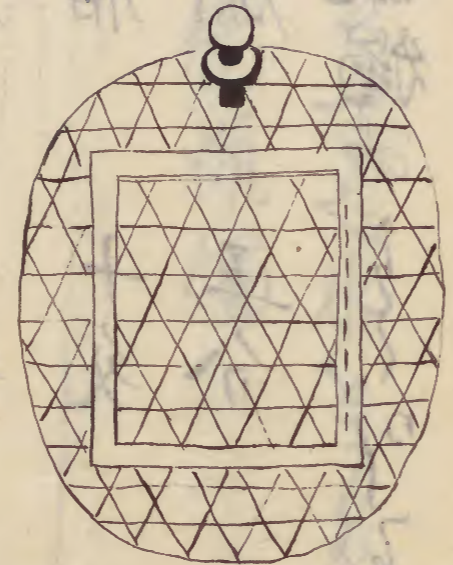
一 投松明



松明は舟をサナハ好ニ  
 小舟にけしおのおり  
 つけあひしすし

舟にまらハ志ラキんよ道に恨つよ高らよ  
 ころろず松付ふあけ入くゆき  
 落火くま事

火くまハれ落ありの時去落く丸作之  
 のよめ級厚一分よ二分よ三分斗松好松好  
 成し



如此烟遠くして後前と  
 寸量



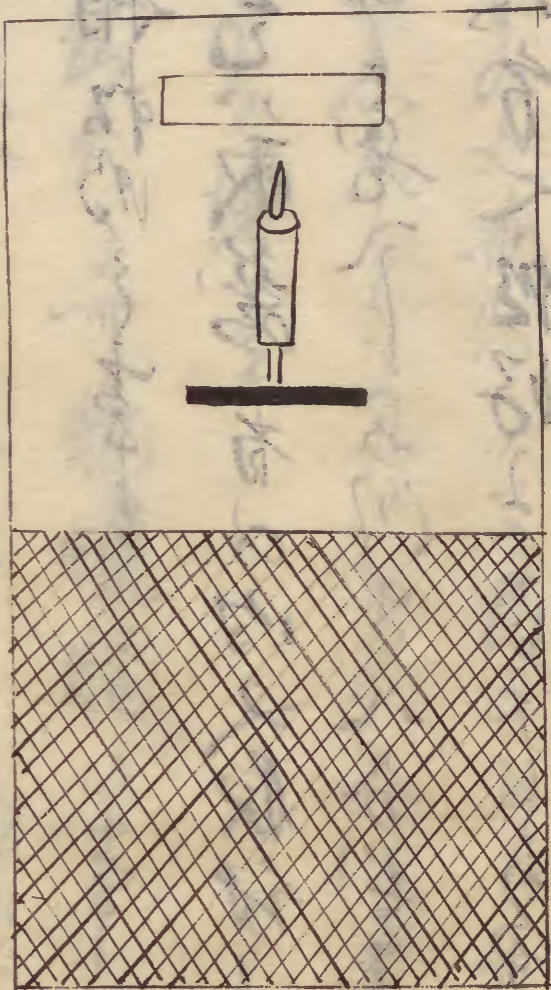
是の中よかすりこくんだ  
 ちりりんのこまこま

右に取落者の内よし常武の松明は火用の  
 西の或油動のものありハ因ハうをて此  
 たとひ才覚の人ありともうかすし





板楯

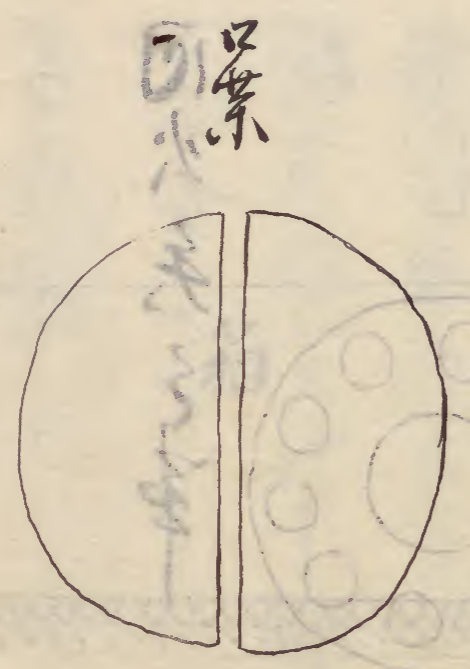


くまりの長を  
三尺九寸俵持人  
の好むまじり  
小のくまりのこ  
ろに銘を  
すくし

右愈より小半つりを物見より六寸用之  
又月の方よりららそくまの外の方より摸  
かんと物見より三尺り

一投火矢之事

是、物討の時敵のあつまりより方不へを射こ  
敵とす、りりす

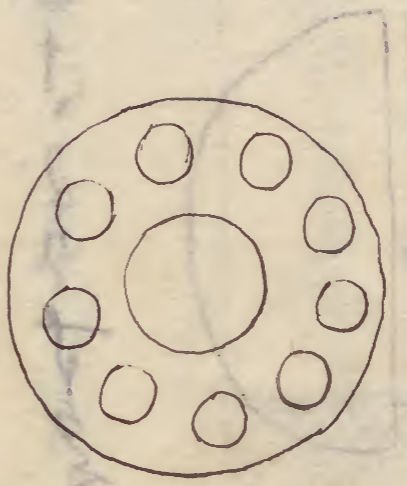


下葉

右ゆけからるあめとくろくろく  
中、銃砲のほよ葉銃砲の物とす

三つふをきこし歌あつてきりつるお入授入なり  
 ちのひの遠は急あつたり

一回火矢之事



け宛殺の好よする

右のりりの宛ふの炭火と入中のあかきり  
 只業と通むとこ三はよ業とこ三とら

紙をとりへのあつてきりし所をあかき  
 けつと火之事

火繩

是より業をカキ



け宛り中入業と通

右のりりのあつてきりし箱の板より業と通

中に行とよりてふせり竹の皮火縄を  
 並に並の中より後絶の葉と小石とをせり  
 並火縄より火の道とて並の  
 よう古こととけきとてすくおとけて  
 敵のより入す方とすく之扱敵とて  
 少も時火よりうらやうとすけ  
 樂馬とて事

是は後討の時馬とねめるとあ敵の中へ追  
 へてけけけの續ねとて海へ付て言ふ少

敵よりるる小若の絶可成ねの小縄一節と  
 てしすひ竹結とて早くもえらとてする  
 だく

捲た舌と事

今更あうせし鼠火とて云うとて

口茶



けりて標とてさうり  
 ところとす竹の筒  
 のこととて竹の縄  
 てりて口茶の方ハ  
 けりてこととて

右方の羽の標の皮より小好茶とてし

右箇一ツの茶の方の事

塩硝 五匁

硫黄 三匁

鉄砂 二匁

桐之灰 五匁

右糸一ツ箇二コノ口茶ノ火を付取封  
の内歌の中へ投下之 数多 略云

張番之事 竹ノ篝焼板之事

より番の内ハ必何れも物静ニ系りし  
と付歌の物付たのひと近所しとん  
しと操りし付と十人より番成と三人  
分五

なり和又わくおの妻下と固根子と  
合御  
魚ノツ板の事と云合者成た事  
急成時  
ハ蓋くみの物志つるりた  
難ニくともこの  
治平ノ又ハ後ノ妻あくと  
めくとさくと習いし  
旅者あくとさくと  
於いそ後く人  
方外下  
外  
てと事  
あり  
入  
篝のり  
ハ後  
の事  
而  
顯  
ニ  
三  
月  
ノ  
焼  
事  
と  
又  
亥  
ノ  
と  
不  
能  
者  
之

三



如此味方の方の火が  
 こいおひまら七人  
 斗一三方の築し焼  
 窓内家へ大小の決  
 方石換の備書物を

右輝の日言よりたてし  
 のと焼く風の板の如く  
 して付し是に

つらみの候に焼捨の  
 火の如く吹来り  
 へし想別篝の如く  
 下きく如し

外きみの事付  
 一陣示すと城  
 迄丑出物ま  
 十人あり六  
 字の長刀あり  
 小脇の

小寸燈

拍子本抄やうの事

大事のあらう拍子本抄への六七名程

宗と物ままと通して叔拍子本抄造歌

方へ安へするやうにするに叔付入る時ある

其本の拍子本より書き写すく抄之用心

抄のうらまの百八四三三と抄叔付六六三と

抄のうらまの百八四三三と抄叔付六六三と

二とある抄へ

歌の叔付思の可方と知事

叔付思の可方と知事

叔付思の可方と知事

叔付思の可方と知事

叔付思の可方と知事

子午酉己亥寅卯辰巳未申酉戌亥

世未辰戌卯申酉辰巳未申酉戌亥

右八十二支を方とあり

甲乙日ハ 戌時ハ 丙庚日ハ 寅子戌亥時ハ

戊辛日 子戌時入 己壬日 丑亥時入

癸丁日 子時入

右千と入付と知之又未とすと思ふ及  
ふ尔砂とすといふと外て入ると  
知るといふ入り法の今他と云ふは  
取也すらん書流外物見よ心持事  
竊盜敵と知心得事

竊盜物見ると敵の他法をす推事  
事外要之知を判めると流す人又

蘇大將物致軍者あるとて名と書座敵と事

依り大事の物之たると敵の物物と心付  
心持の物と心付知危し加取の物と  
定ると入ると自シカ知と心知し或  
のいふ其法の外に入所と心と心と

内通事付矢文の事

内通の事付矢文の事  
さうやうとて昔と密掛相あとの計



しるしを申しつらうと云ふと不審の者ありはし  
ふと不審にして彼らも分圓の控たし  
のつとびある竊盜と云ふありとんえたり  
又夫文ハ又まふふと作し執りある夫文  
又まの彼とまきしつらうと云ふ夫文とて味  
知れぬ要之紙の裏の版ノ文と云ふを  
とまゆ又巻ハの版刻して紙と入て執ると  
打つらたうしと云ふ

竊盜卷上 第一諸家中伊賀甲賀者可有之事

一 大花のしるしの竊盜者ありてハ不審彼之大將  
領軍の上ハ成り執り是場と云ふ  
半謀ありとて成らぬ其上番而日有用心  
たしと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ  
と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ  
ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ  
ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

竊盜を分別之事

一 切乃入る軍者ハ惟一人と云ふと云ふと云ふ

引を遣して城の案内とて入るべし  
ありてはあをへてせしむるも古より

竊盗の可き事

竊盗の可き事  
智を以て力二免れし事三口の事  
尤も免れし事  
常しけるもの心付け多し  
他事より免れし事  
尤も免れし事  
久しれ前より云わく侍等甲斐流可免

竊盗の行人の得る事

一 舟の行人の舟一命と捨てて  
あつと力と捨てて  
心持新しき  
怪持入る

竊盗の可き事

一 敵の法度の上の備は  
物にの面とん急旋幕の致道筋山河家  
二 若くは法度の上の備は  
三 若くは法度の上の備は  
一 此事の可き事

新しき書よと云ふ

竊盗のつねに事し業内と同事

一 君のつねに事を逃く心と云ふは刀派指

新しき事と云ふと捨てし事と云ふと

るりしと行ふと思ひ身命と怪迷候と云ふ

去らんと云ふは我の我の致るなりと云ふ

君の持る教之云ふは食高人下海と云ふは

他國よりと云ふは業内と云ふは百姓

の家よりと云ふは捨つる事と云ふは國

又我國の心あり少と云ふは業内と云ふ

は他國の心と云ふは業内と云ふは捨つ

る事ありて教ふ業内と云ふは我國の心と云ふ

は事ありて竊盗と云ふは業内と云ふは諸國の心と云ふ

は事ありて又捨つる心ありて諸國の心と云ふ

は事ありて捨つる心ありて諸國の心と云ふ

竊盗火と物事

一 君のつねに事し業内と云ふは野山と云ふは

ては家よりと云ふは業内と云ふは

味多と物多味なることと煙とさるるを  
火抄多しと云

小香煙より火くといふ事入りなりと云

根元の黒焼くと海産を焼くは少くは竹を扱ふ  
よりしなりと云

加尺合板よりたれとの事 馬鏡 塩硝一瓦 五瓦

右等と細末を竹筒に入れて火の付事也

竊習多き事しれ食を抄り

一 忌衣と被るる山野の針たて熱別目

の之ぬいそと物之又食物と物より干飯と湯  
よりたれし物ありわらわの冷ま物と抄り

水をとるると知事

一 舟と舟より心切を柳の生ける所儀のむり

一 舟よりなるる厚鴨白鷗踏かるとのちつ

と下山塗但敷下よりなるれちとひりとのふ

二 目と竹節の事所者一

一 思ふ五ツの肝要と云事

一 思ふ六ツの行要と云事内と云事内と云事

一 火と大荒りとのさぶたのたけ人取扱  
子安の御し回りのさしと知りそのさしに竊盗臣  
と徳吉と徳吉實家の新数と及び有積  
さしと忍とばし

一 志の習事  
一 志のいとすうりつ内さあつるす事なるとはけり  
一 志の徳吉の徳吉徳吉他に合中りと業内と知表  
裏とん徳吉とさしと又志の徳吉とさしと徳吉  
の徳吉とさしと徳吉徳吉徳吉徳吉徳吉徳吉徳吉

一 竊盗  
一 竊盗  
竊盗とすうりつ  
竊盗とすうりつと徳吉徳吉徳吉徳吉徳吉徳吉  
徳吉徳吉徳吉徳吉徳吉徳吉徳吉徳吉徳吉徳吉徳吉徳吉  
徳吉徳吉徳吉徳吉徳吉徳吉徳吉徳吉徳吉徳吉徳吉徳吉  
徳吉徳吉徳吉徳吉徳吉徳吉徳吉徳吉徳吉徳吉徳吉徳吉

一 竊盗  
一 竊盗  
竊盗とすうりつと徳吉徳吉徳吉徳吉徳吉徳吉  
徳吉徳吉徳吉徳吉徳吉徳吉徳吉徳吉徳吉徳吉徳吉徳吉  
徳吉徳吉徳吉徳吉徳吉徳吉徳吉徳吉徳吉徳吉徳吉徳吉  
徳吉徳吉徳吉徳吉徳吉徳吉徳吉徳吉徳吉徳吉徳吉徳吉

敵の者あるは方々なるも先年表をいふ  
あつた少の物をもとと謀るは事ハ昔の者  
りあつたあつたは沈むか極めあつたあつた  
はつたつて終つたあつたあつた又あつたあつたあつた  
ては長口なりとふ腸なりとふ屏柵なりと  
使ふは物なりと檢見なりとは或は謀るなりと  
れは昔の者十人あり二三人は主なりと極め  
は功なりと極めなりとあつたあつたあつたあつた  
りして大事なりと致しつたあつたあつたあつたあつた

は又表あるは由ありと致成はつたあつたあつたあつた  
なり物なりとあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
昔の者又表裏のたつたあつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
之れはあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
者の入事なりとあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
は衆方なりとあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
方へ可也なりとあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
又あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

五名同の抄法に何方ありと云はれ  
此の入りてんるる

竊盜の案内と抄事一何れの内一回抄事

一 今我が海に番あると云ふは合戦場の案内  
を記せんとして竊盜と求むる因にせん  
たりたりとて切着の思ふて成りし  
退口ありと記されしと云ふは  
一 今我が海に番あると云ふは合戦場の案内  
を記せんとして竊盜と求むる因にせん  
たりたりとて切着の思ふて成りし  
退口ありと記されしと云ふは

後ろ地の花々々々赤白黒の名と云ふ  
花の付は何れなりと云ふは又初  
の入りたるの山河森林の目付と云ふは  
のたれなりと云ふは

竊盜の案内と抄事一何れの内一回抄事

一 今我が海に番あると云ふは合戦場の案内  
を記せんとして竊盜と求むる因にせん  
たりたりとて切着の思ふて成りし  
退口ありと記されしと云ふは

物束さつて道端よすまの飯を我も先う納  
ふと知るとの乃流々の我初るをうや或は  
をいふとくは詠の成すもあやうしやたあ  
作あり成振りも見えおろしとく走者なると  
尋ふ時えけし歌うもいひこわうとすしあ  
物束すも事之任せしつゝあんなるまの美  
疑しとすすこを云ふ肝要に付文書あは  
きりしんえうとすも成なる紙あくとす  
しりしんえうとすも成なる紙あくとす

まふあうとく是等い昔くを定しとくはせ  
とくは人ああ人いけおろし作意は長  
一 大多取らるゝの事

一 竊盗は人のいけとおろしを者るとし作  
あうとく歌多く味方つとくはとくはあ  
いふやとくは行合も事とくは山里たす  
しりしんえうとすも成なる紙あくとす  
歌うもいひこわうとすしあ  
歌うもいひこわうとすしあ  
防弁



我、虎にあらはれ、大にねまのまうみとおそぬれ  
り、返らふみ右の平の大指より成言子也  
富くお指と握りて、けおの松傳のらめく  
お、後と事と

・ 惣討の款のり

・ 惣討の竊盜の者、業月と形可討是  
一有りとし、れ、後、あ、ま、と、海、只  
は、是、場、あり、と、あ、り、え、く、討、惣、討  
せん、思、つ、討、屋、の、軍、ふ、と、し、く、し、別、銭

働、く、次、款、の、方、と、ん、く、惣、討、と、丁、七、大、辨  
り、そ、惣、討、の、何、と、い、ふ、う、り、よ、と、あ、り、て、一、子、を、  
け、い、よ、の、武、者、是、い、け、の、を、と、あ、け、鳴、物、と  
な、く、く、敵、と、敵、す、り、役、之、一、子、の、思、の、武、者  
是、い、款、の、お、お、け、し、る、お、と、討、九、役、之、一、子、の、表  
裏、の、武、者、是、い、世、彼、と、お、め、く、と、款、の、お、指  
を、ん、お、く、之、お、指、す、款、討、の、款、味、方、の、小、辨  
と、し、大、智、う、ん、返、し、う、ら、く、と、放、軍、す、ま、の  
後、又、竊、盜、あり、に、ひ、れ、は、り、一、百、銭、

くさるゝ窮りそ打所は火あきと捲  
後人多世彼より此歌のさうくあといひこ  
二ひこさつりや封れたるを想ふに思ひた  
歌くとまゝに早く引九事むと

一 思付のまじりとする 竊盗之事

一 竊盗思付の案内といふ事  
前日は思ふと案内といふ事  
二 思ふ事しつゝ

一 思付すまの思節之事

一 嚴時扱ふ半毎風三つり成次め扱ふは  
そいへし去るゝりやると大風ふら自由  
ある扱ふ能働るる海へ

一 思見の思付る事 思ふかたき事

一 思入の思付る事 思ふに思ひたし  
思の思ふる成はけて思ひたし  
思ふと思ふと思ふと思ふと思ふと  
思ふと思ふと思ふと思ふと思ふと  
思ひ押あつて思利の思ひと思ふの思ひと

とて我津の惣討の事とて後、用意  
の神と敵とをさつる思ふんを或る事と  
し、あつて敵の事をさつる事とて右の事と  
断し、つる内思やうに用意して討し、  
一 表裏の惣討の事

一 惣討の事、推しの心、おとす、  
表裏の惣討の事、推しの心、おとす、  
方、おとす、敵と偽り、おとす、  
成し、つる内、我々の城、海、おとす、  
用意して討し、

を、おとす、つる内、我々の城、海、おとす、  
用意して討し、  
方、おとす、敵と偽り、おとす、  
成し、つる内、我々の城、海、おとす、  
用意して討し、

也。是に敵と方陣とをむくまはりて之より獲る是の  
敵ハ敗軍のしはらざるをててての軍に利を  
ひかりて事なす

一 付入之事

一 敵の付入する事な後心はらざるをててての軍に利を  
むくまはりて之より獲る是の敵ハ敗軍のしはらざるを  
ててての軍に利をひかりて事なす

の要りなき何れか之の惣別はらざるをててての軍に利を  
ひかりて事なす

一 合戦合戦と云事

一 合戦の必勝方是之と敵はらざるをててての軍に利を  
ひかりて事なす

正成をよぐりて擧ぐることをしむの役は全無と云  
けし得るものいづく分別を

一 惣封をよぐりて擧ぐる事

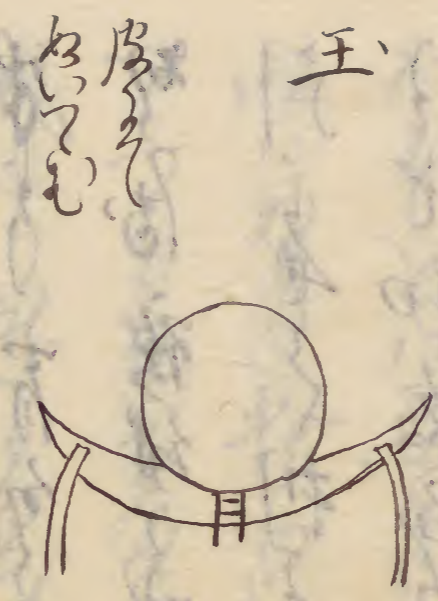
一 惣封をよぐりて擧ぐる事  
あひの付選口ふりて白おまを惣封に任せり  
なるといふ事とて成りておまをよぐりてし我の  
付の如き付白おまをよぐりておまをよぐりてし選  
とつておまをよぐりてし又城と陣とを別有  
城よりおまを惣封陣よりおまをよぐりてし高夜

半より宵のハ難雨の波ふと付之陣より  
おまを惣封に成りて付入せんをせし惣封を  
引とせし判を惣封に付入せんをせし惣封を  
よぐりておまをよぐりてし惣封をよぐりてし  
おまを惣封に

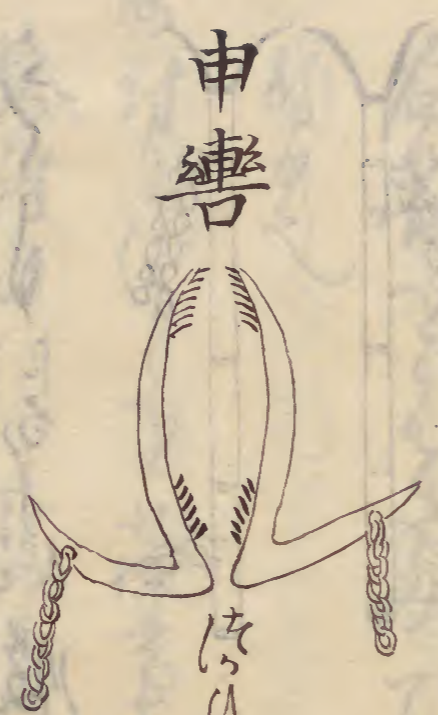
一 惣封をよぐりて擧ぐる事

一 惣封をよぐりて擧ぐる事  
おまを惣封に成りて惣封の案内と知つておまの  
おまを惣封の生捕と列封事とをよぐりてし  
おまを惣封の案内とよぐりて惣封の案内とたすけ

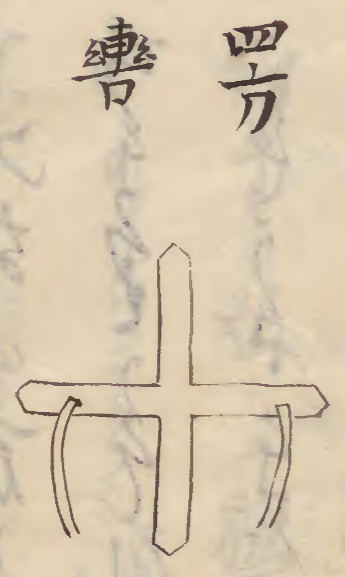
令恨なりはるふとて整物するに當  
 神のふおる長し一丈何ハさるりさる  
 こと長繩と付く業内をなすは  
 刀一臺とたりさるぬり別を  
 一痛同具乃事



玉  
 皮を  
 ぬいて  
 けむと甲より入結と髪  
 けむと甲より入結と髪  
 けむと甲より入結と髪



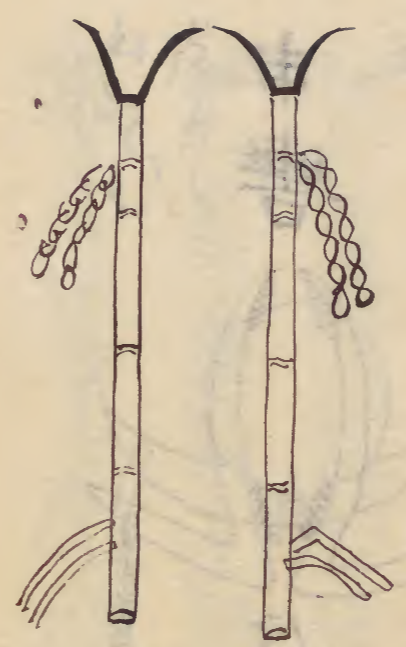
申響  
 けむと甲より入結と髪  
 けむと甲より入結と髪  
 けむと甲より入結と髪



四角響  
 けむと甲より入結と髪  
 けむと甲より入結と髪

右物としせさる用也

一 高年のまがらうりかきりさのひかひのたすま  
と入あの方をかくこむすひのこめ  
らるるまをひぢらのつりとりとら  
しうさふた詰ると男後よぬ  
まをまのま股をくむこす  
うくまのま股をくむこす



女用女の胸のたすま  
そのたすま男用  
このたすまは

右巻とまがらうりかきりさのひかひのたすま  
は

一 股付のひかひと袴

一 股付のひかひと袴  
用意とあつては足用の意とあつては  
ひかひのたすまは足用の意とあつては  
ひかひのたすまは足用の意とあつては  
ひかひのたすまは足用の意とあつては  
ひかひのたすまは足用の意とあつては  
ひかひのたすまは足用の意とあつては  
ひかひのたすまは足用の意とあつては  
ひかひのたすまは足用の意とあつては

ふし守退口より味方よりさうなるとのなり  
これに前よりと云うとさうなるとのなり  
なりと云うとさうなるとのなり

~~右冊行りとも務りとも化々し~~

右す法にさうなるとのなり  
てはおもひよひの百の内七八十を  
能くし或ひ一斗のうり二三本  
侍りたりと云うとさうなるとのなり

行りたりと云うとさうなるとのなり

一 郡下と役所付の事 付道号のり

一 大城小郷 ことしと小城小郷郡下とのり

と内は船付の船示のり

必山の候記をたのり

一 子つかしと持りたるは

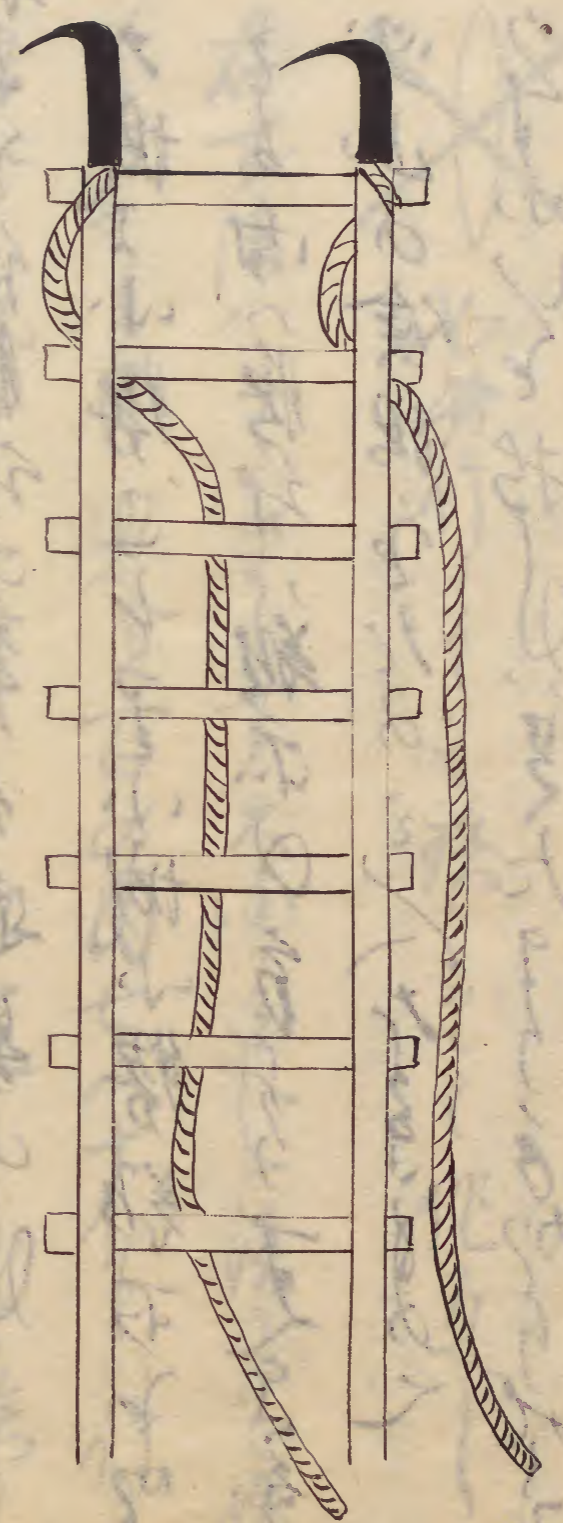
若石律ありとのり

一 携カレミキはさうりとのり

町をうりあり候者及岩石



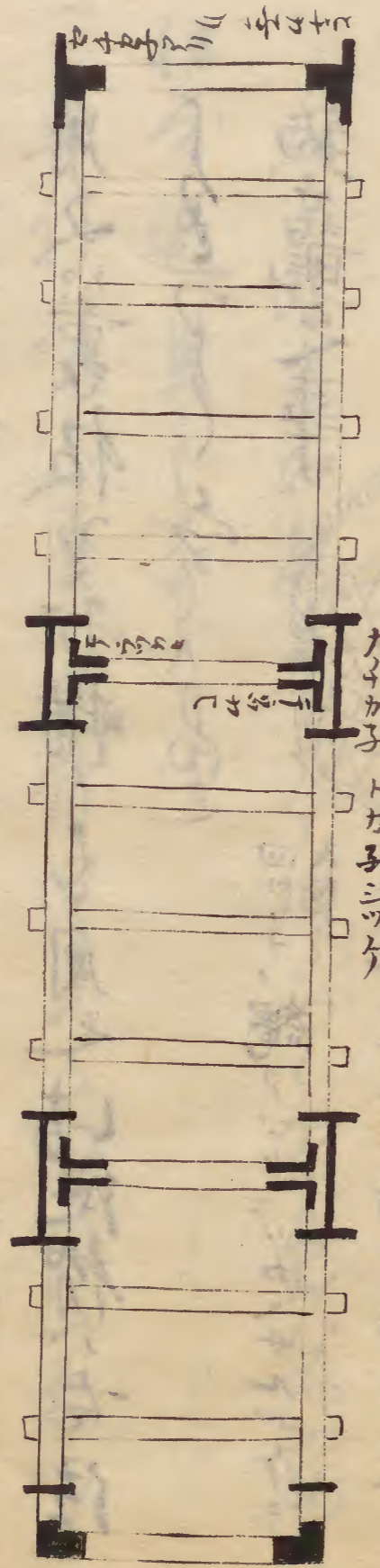
但滑りたる人...  
 可あ...  
 一 巖石材之事



右に凡と巖石系打鉋ひ之繩と丸巻し

い...と繩とつ...  
 凡

トウカ子カケ分ニ  
 大子カ子  
 トカ子ニツケ



右継材之事

又右...  
 常ハ屏風...

竹とてけすしつひの下の筒つゆと仕付はしよの  
 筒つゆのけしつひしよ仕取長のふかかよのさう  
 つゆとてけ筋務とふかきよ仕つひのふか  
 けつひ仕取のけしつひしよ仕取自由  
 用又の表板と打楯とて用之け継柄の古法  
 けしつひしよ仕取

釣籠之事



け縄ニツクリ  
 但、長手付トモ

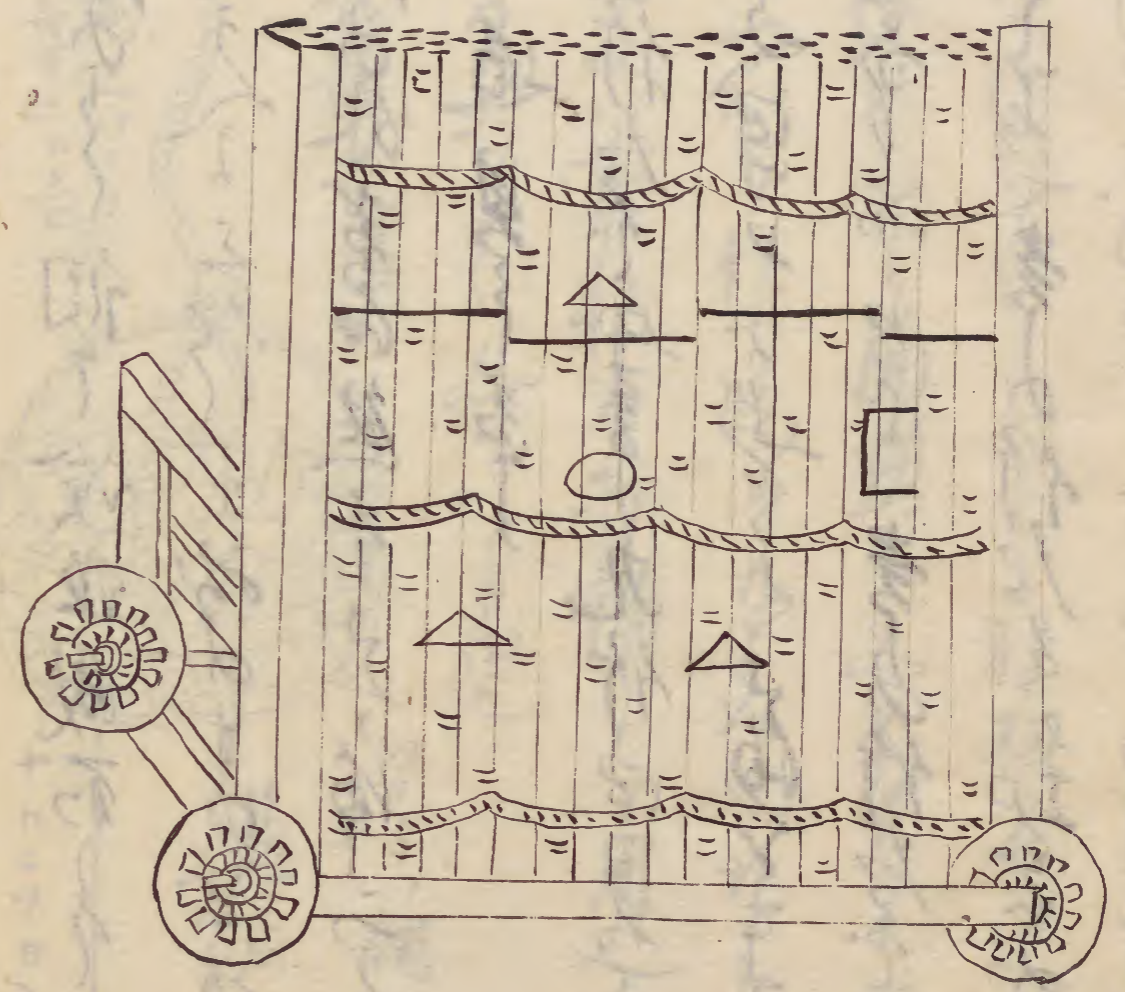
四ツキ、縄アツタニツカサルヤウニ  
 スハシ  
 籠、正ニワリ竹ヲ入ツヨニスヘシ  
 フチハフギニテコクヘシ  
 此枝ハ引上ル時若  
 ナトニツカレル所ヲハツスタト也

右のこゝ個々喰化威取しよと男控人六七人  
 けしつひしよ仕取

右の外者の籠手こゝ海つゆけしつひしよ仕取  
 仕取道具之事

一車竹たごの事、九竹回りあるかけ一車つ  
 けしつひしよ仕取  
 右の外者の籠手こゝ海つゆけしつひしよ仕取  
 仕取道具之事

車竹束圖



け人さきと  
 ともやし但自  
 ちよなちん  
 般人二十人の  
 かこひりち  
 りりりりり  
 く

一 釣物樓之事

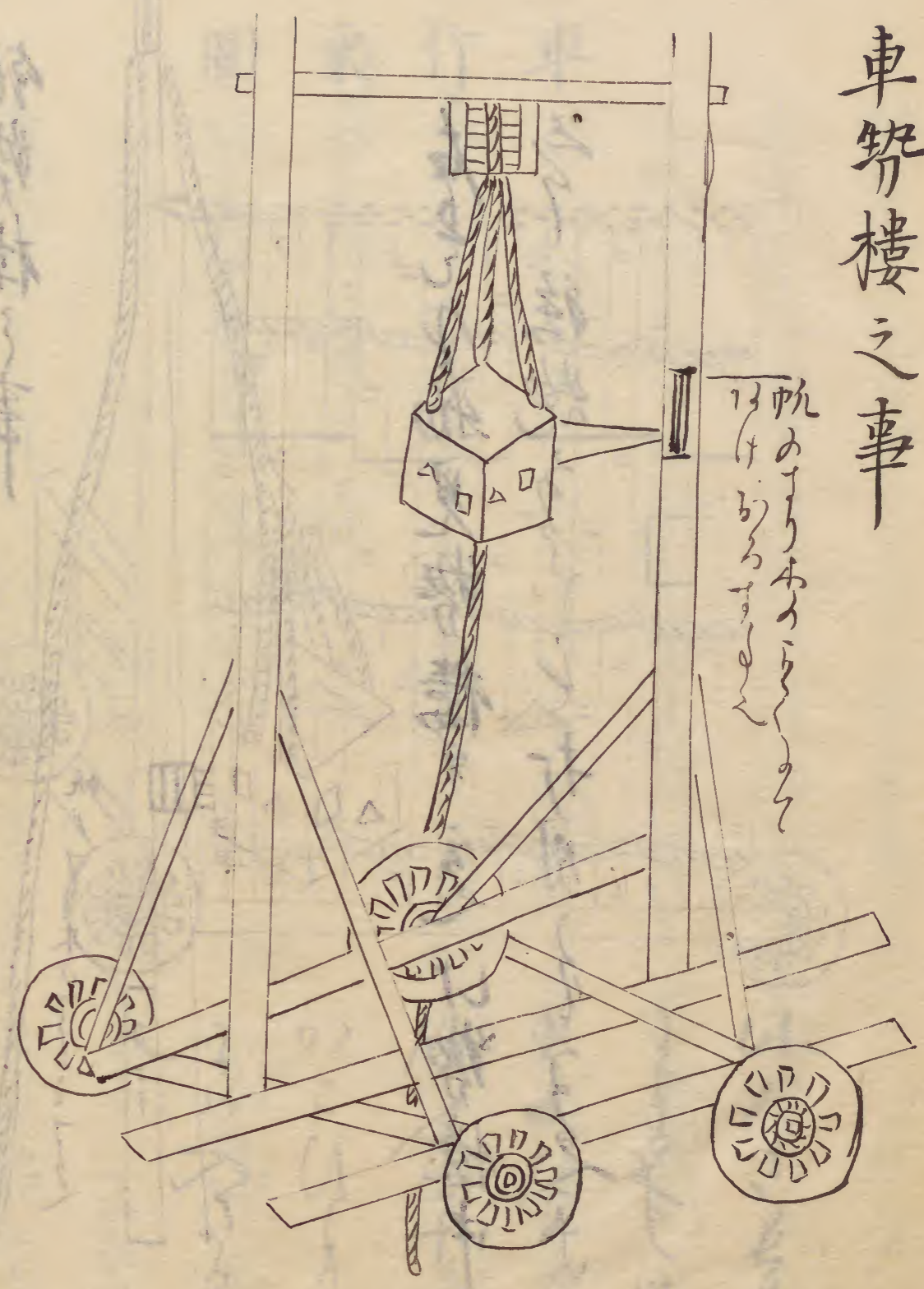


帆乃下り舟の事

右是舟物見物樓を之に  
 釣物樓申度  
 之に船炮を之に打用

舟物見物樓

一 車勢樓之事

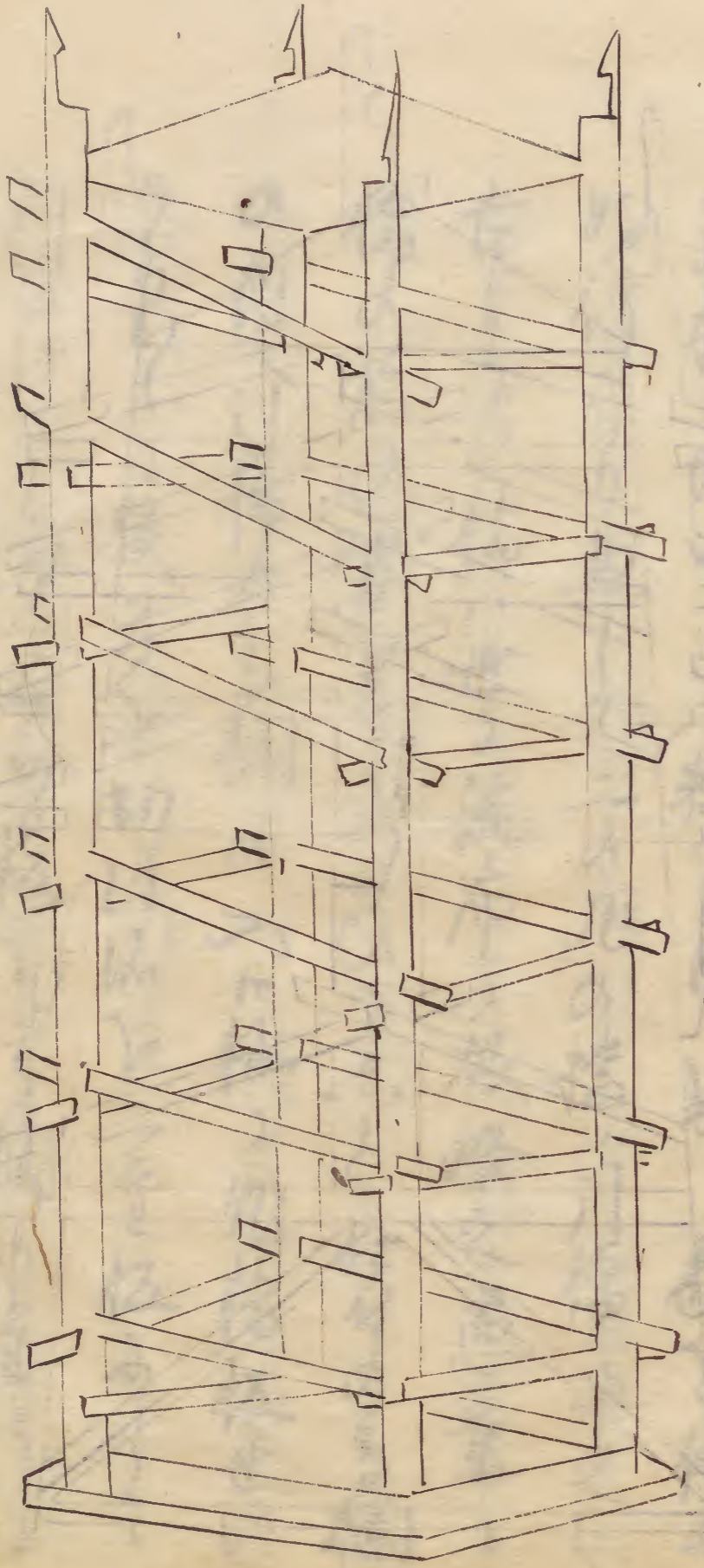


帆のすりあふりくま  
けあふりすしん

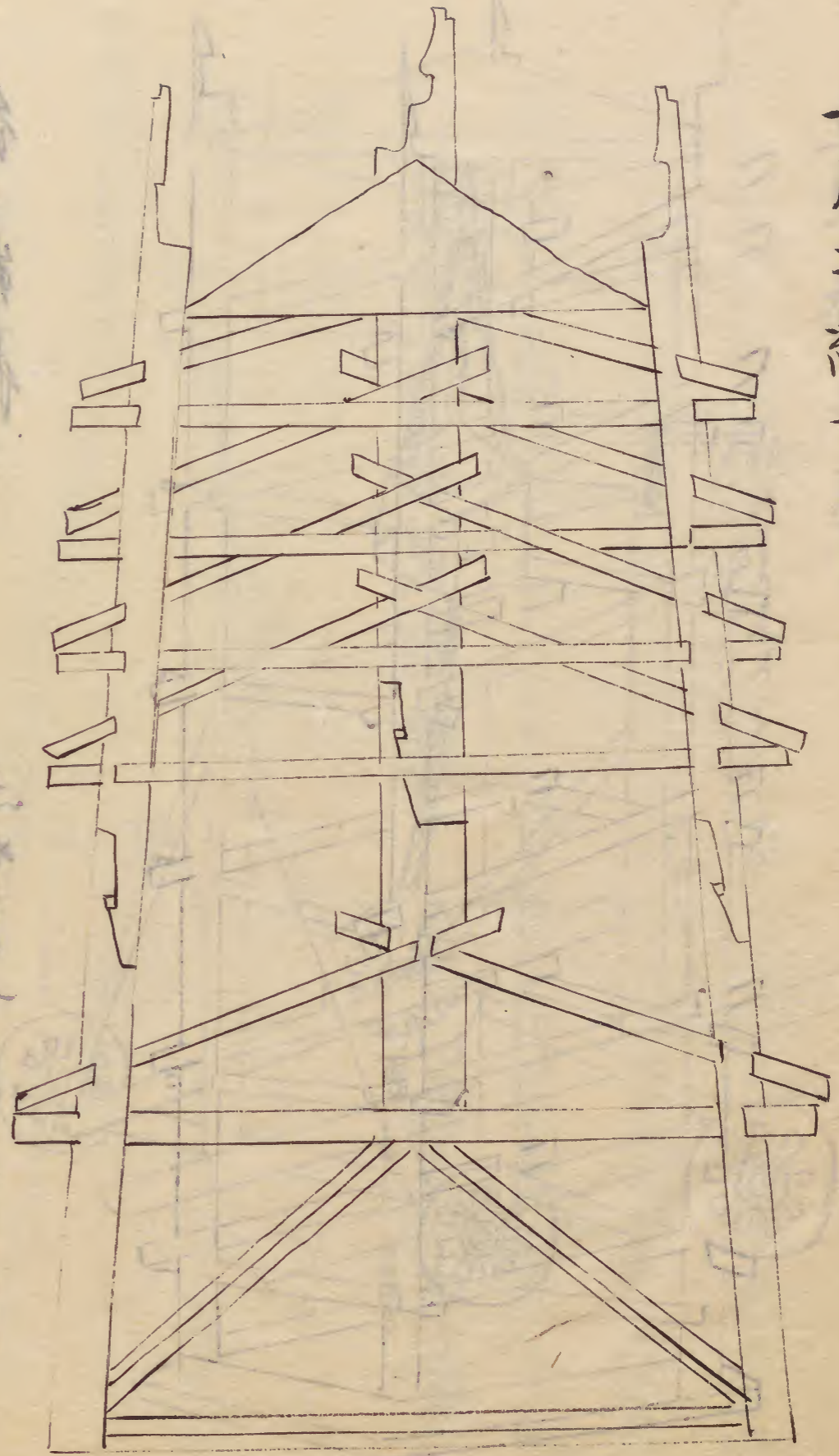
一 船勢樓之事

一 組上勢樓

一 船勢樓之事



三角之組上



高木架

高木架

水と便と事

一 引橋の城中の敷自由と一筋と御也  
 ぬ行なり想く二の凡の橋引橋と也  
 右のりの橋の世の流布の放略之思案  
 橋の前の方とつひと仕付の欄  
 の内へ引橋の欄の板の板と他橋板せい  
 くのくは使ると切れ板とてき板め  
 引けしは河の板と欄のき  
 引けしは場の板と欄のき  
 引けしは場の板と欄のき

け川橋と惣橋よりせざることを用ゐ又安免  
の西に引籠のりゆるい港合よりいほとけけ  
橋はよりゆるい口橋をき

一 鹿嶋の川海軍の村せをよる総と張古の橋  
張之も南代に流るるひすぢりてとも  
水のせなるも鹿嶋の張よりなるは船よりなる  
ろくせざるも川流るる或はことせざるも  
根よりなるも川流るるは船よりなるは船  
よりなるも川流るるは船よりなるは船

とあるより橋のきくはなること

一 川とせり古の土俵本よりせざるも川流  
不よりせざるも川流るるは船よりなるは船  
りる船をよるひすぢりてとも  
をよるひすぢりてとも  
一 山を便する事

一 江戸より上りてくる坂甲より大石大井あり代車  
橋よりなるも川流るるは船よりなるは船  
よりなるも川流るるは船よりなるは船

一 内をわきまの坂中よりわきまの是より宅  
 内平の坂より入し底を机櫃と打と  
 一本のまゝとすけて是にけんと川の深  
 かりきとわきまの流しと知とまじり有  
 一 机櫃のせり事より川の故略と  
 一 弱返り云の山のと一丁半の小窓と幾ある  
 一 毛塚のまじり事より是とたよりし  
 一 釣屏の内の方よりまじり室を付屏と云  
 一 五丁半のつとま加錫とすは山城の室物と

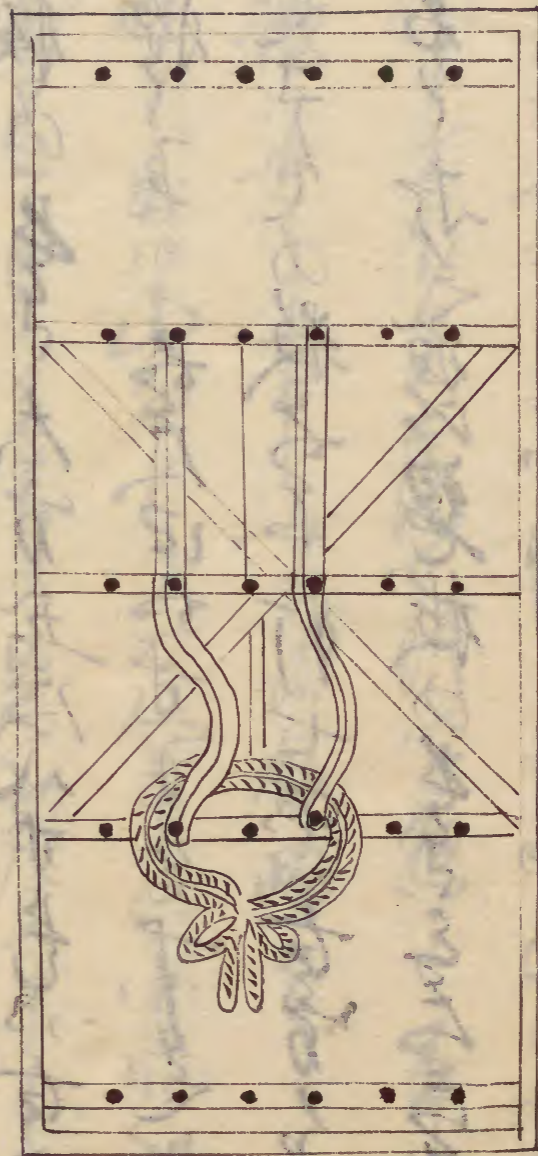
一 不苦平城のおもてす

一 楮之事

一 楮板の長さ大方五尺八寸是は古方の代ハ  
 白楮とあるは尺八寸とすは楮ハ二尺八  
 寸とすはの教は尺七寸は古方の代ハ釘  
 三ありおの楮以楮板の長さ三寸ハ能  
 八寸よりすは代ハ楮板のりより文字  
 のさしとすは楮板の厚は八分は代ハ  
 法物より改よりまじりけり方よりすは

釘のうしろへすすめりて

楮板是ハ長楮共云



右ハ柳板なり

一 狼網法之事

のり、海くしの法多し云々今け方ハ楠正成  
松すの法ニ

狼米黒 三分一 松葉 四分一 藁 大

右三分一ハくしの板ありハ三分一狼糞  
を入るハゆえに云々右之云々也 惣今云  
てハ中ハ狼糞の葉はくし方多しハ狼網  
云々云々事

一 狼網見極之事



一 狼烟の風ぬりし時 村又のさき 内あり 煙  
んえうくうあし ちかみの雲ふらとせし登  
うす白くたふに 麓ありの如くえんゆを想ふ  
けしきあめの草よりすまふ及れあし  
あそふしとせすまふ

一 相討乃徳のあり

一 相討乃徳のあり 退にさく赤通ハ仕安知  
しもの乃くま海をまむつらあし ちかみの教  
をたふあし 或ハ山川の目他と致又ハあふ

紙をどとつけ竹をとはして け物来とさ  
つひ何とせしきと 目前の候し

一 相迎乃新すむる候事

一 武道のり新強敵りくく軍の法陣示し  
城中と敵の業内とあつて 相討しあふ  
あれ霜雪の火とけしれ 敗軍すくあし  
又四武者の馬具物具ありとあし せられひけ  
とあし ちかみのせしとせし 武家とせし  
とあし 八眼赤の道ありし け文相儀あり

の役に入ち事よりのく味方より致とて  
しまたうりも致ありまゝと行ふ不し  
合時とて知し敵の竊盜かたり  
とて致事あり

一 飛法之事

一 飛法はつりやう大勢とて  
むきも危し  
一 飛法はつりやう大勢とて  
むきも危し  
一 飛法はつりやう大勢とて  
むきも危し  
一 飛法はつりやう大勢とて  
むきも危し

騎馬のたぢり  
さす  
人  
つり  
陣  
と  
人  
歩  
歩





をいふしゆのりていふしゆにたれを  
いふゆのち捕りていふゆのち成て後  
旅平は成ゆ成ゆのゆのち

一 旅平の成ゆ成ゆのゆのち

一 旅平の成ゆ成ゆのゆのち  
いふしゆのりていふしゆにたれを  
いふゆのち捕りていふゆのち成て後  
旅平は成ゆ成ゆのゆのち

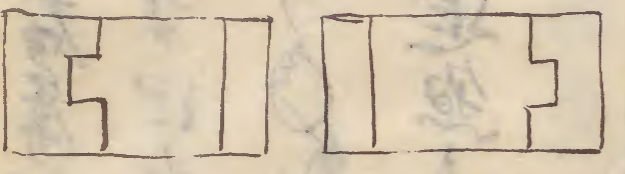
一 旅平の心得

一 旅平の心得  
いふしゆのりていふしゆにたれを  
いふゆのち捕りていふゆのち成て後  
旅平は成ゆ成ゆのゆのち

糸のせき... 何とた... の物と花  
 ... 切らした... 多々...  
 ... 彼...

一 旅人... 事...  
 一 ... 旅... 可...  
 ... 子...

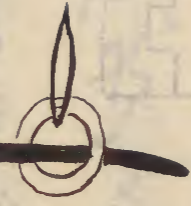
一 ... 柄と... 寝...  
 ... 柄と...  
 ... 柄...



右目筋

右屏風のたすきと行方より見たる守りも六  
寸ほど分厚好法なり但緒より用けらるけ  
るといふゆゑ行方と用之

追憶者内を路行時ハカ脇持堅ゆる物に渡り



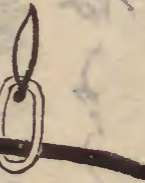
是の常の返之は  
〜

是の常の返之は

〜

〜

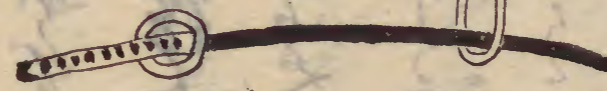
〜



水無けぬま

〜

〜



一 旅者より三つをあらす一両をくみ用んばに

〜

〜

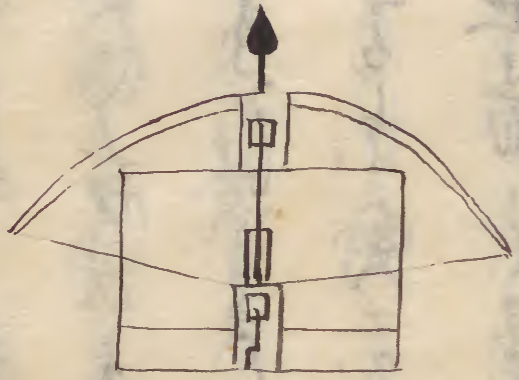
〜

是の常の返之は

〜

〜

〜



右にまをせるゑんをつけた戸のなま行ふと  
うし右のゑんとうらうらうまあまうと  
うしひくまへに換ふとこしと張しけ糸小  
ぢりりりまをあれ行ひくるとこし  
追魚者之事

一 追魚者とのなまはる事 追魚に追ふと  
入るげと歩むとと合ふとまをれとま  
け文體ありとこまはる事 追魚のなま  
をわうとくくとまをれとまをれとまをれと

まをれとまをれとまをれと

一 火事しつけの将との

一 火事しつけの将との  
新防想別火の御條武造にともす  
御條のなまはる事 追魚のなまはる事  
つとまはる御ふとまはる御ふとまはる御ふと  
かまのなまはる御ふとまはる御ふとまはる御ふと  
まはる御ふとまはる御ふとまはる御ふと  
用ふとまはる御ふとまはる御ふとまはる御ふと



つふ事むをこの後名、皮衣移りたるよし及を  
いひ口と酒との飲りし風つゝ年宗絶少  
ても方掛けし隣家の焼はるゝの事  
数大けしゝ事、内方跡先の家と跡方  
し

一 取巻者申付分別之事

一 此巻の付着人のあつた事なりて大死とす  
くしあつたのあつた事なる内方月々事板  
敷とすしはるゝ事と切し延成のいしとす

此の事とすむ指し巧とす事ありてまゝに  
ふる事たるも銃脚の云甲斐なくん事  
大死せしむと勝たふと知とす事  
と殺むのむ惜候し竊盗ありて大死の事  
なり搦捕（か）こはれ方たはるゝ事  
なる事ありとす事ありて内方所従候事  
一 一殺し丸せありて殺し四の跡成り事  
逐りし事ありし

一 竊盗の事ありとす事

一 其の控子の御くともすしとてらるゝ事あるは人の可た  
方より得に治すべしと見えしと云ふ事しき

一 比世と云ふとてあるのねるといふ事かた  
と云ふ事あるの者ありと云ふ事ありと云ふ

一 つけしすしとて行ふと云ふ事ありと云ふ事  
ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事

一 竊盗物といふは二方の事と云ふは一方より物を守  
護すといふ事ありと云ふ事ありと云ふ事あり

一 何をけん見方と云ふは多しと云ふは事ありと云ふ事  
ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事あり

一 の事ありと云ふは難しと云ふは事ありと云ふ事あり  
といふ事ありと云ふ事ありと云ふ事あり

一 是れぬけしと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事あり  
といふ事ありと云ふ事ありと云ふ事あり

一 右の大方之候に旅者ありと云ふ事ありと云ふ事あり  
といふ事ありと云ふ事ありと云ふ事あり

一 事ありと云ふ事あり

一 旅宿位居之事

一 旅宿之方 太平ある旅に宿のりるに旅宿  
に依りて寸又大勢なる事 くるる時二  
りて宿に二宿し 妙し大業の取らるるに  
母寸とせとて 宿するの事と能くして  
いと又書きたる方と物の方の可成りと  
かろくまうとありて 宿するといふ所は  
とせるといふ合つとて 又復たるに 旅の  
の事 俄と語らば 宿するといふ事 旅の

一 宿の事 宿の事 宿の事 宿の事  
宿の事 宿の事 宿の事 宿の事

一 囚人之事

一 囚人なる事 囚人なる事 囚人なる事  
囚人なる事 囚人なる事 囚人なる事  
囚人なる事 囚人なる事 囚人なる事  
囚人なる事 囚人なる事 囚人なる事  
囚人なる事 囚人なる事 囚人なる事  
囚人なる事 囚人なる事 囚人なる事  
囚人なる事 囚人なる事 囚人なる事  
囚人なる事 囚人なる事 囚人なる事

二ツルりりし物本として記す事尤も大事の  
七ツルりりし物本として記す事尤も大事の  
と云ふこと志すに非ずは有りけるにや繩と云ふ  
も云ふ他也之列初の内を先知り又ハ流り候  
おつらにたしとせざりしと書きてこそせり  
よある又序の記述を此内行へん丸志し本  
因しと記すこと並のりも自家の用定む  
一 竹と繩魚の種ありし時魚を打捨つること  
あり生捕の儀ありし其の法又方けりし  
てわしは海(かたし)と云ふらふとてはと先  
捕

一 首のりとたるちりしと云ふをむらうと記出せ  
是れは尤も叙しと記出する候  
一 切腹人のむらうと記出する候  
と云ふは手紙のむらうと云ふは二分なりた  
りしむらうと云ふは月と云ふは日  
と云ふは切し我けと切腹人よう  
はより後切腹人のたの方へありしは  
心むらうと云ふはと云ふはと云ふは  
記法と云ふはと云ふはと云ふは

人々々々々々をばり分別をへ  
かひもやへ目付の事

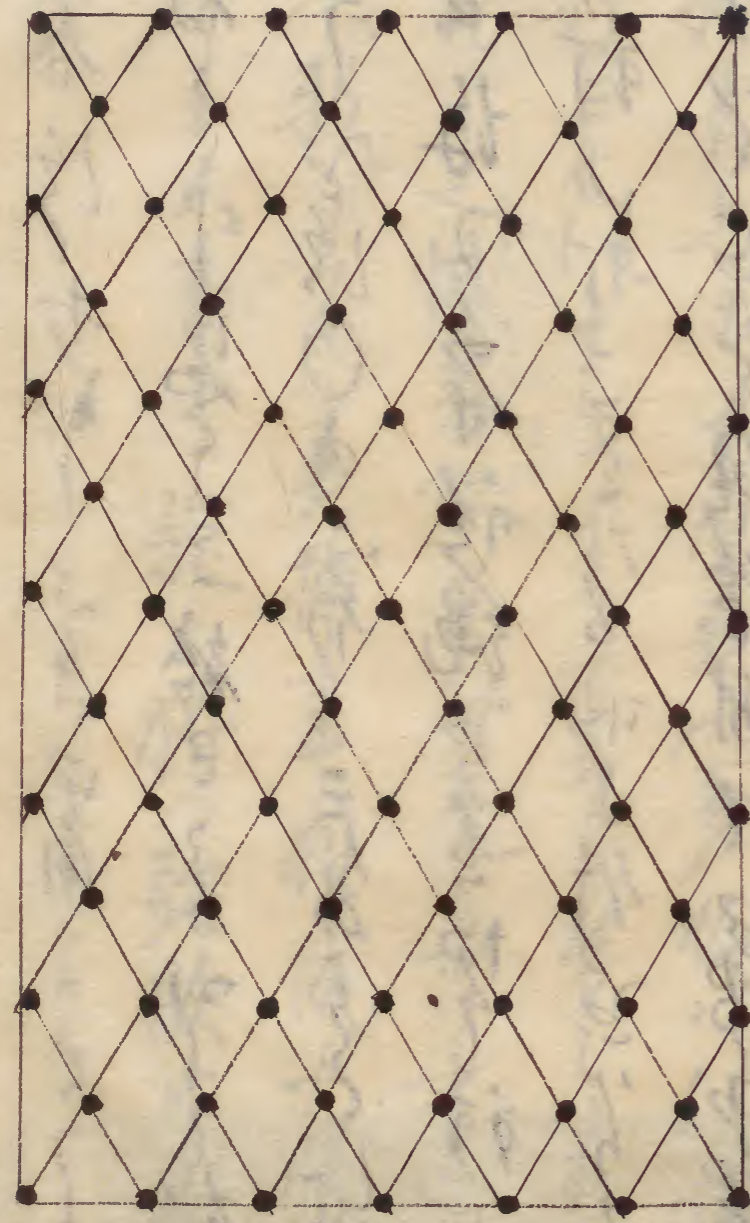
一 首とひひき切たるはれ撫をきり切る  
かへり子細かひのやへと大事の物こ  
打るこひひて配屏とれ人々の手あひを  
能きるへ傳え切腹人の氣とやいやら  
右のひきとやうへへ切腹人のあひに  
又目とひき切るうじ但切腹人の首のひ  
やへとやうの事かひのやへ手前よくとる

類仕りきりのく切腹へ脇持刃込切ら必  
前より首のびしてはゆりよのくけ時よ  
目と付る川魚をかりをいれぬ人の刀  
そよハ能く知あると又配指をいれぬ  
すね割らふ為の方より切るは海魚は但  
能きもけの首危よとて  
一 捨使ハ切腹人の志向の方よりせしむる  
二 刀のうら成すをゆえはとすを  
三 刀のうら切腹へ捨使の刀をうらひぬ

人多く換つるもの多し人の多し一  
入る事ありし一  
右何と竊盗り更しめて他人有し

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

落形三ノ事の更之事は仍方(ト他見  
しるらわぬと云

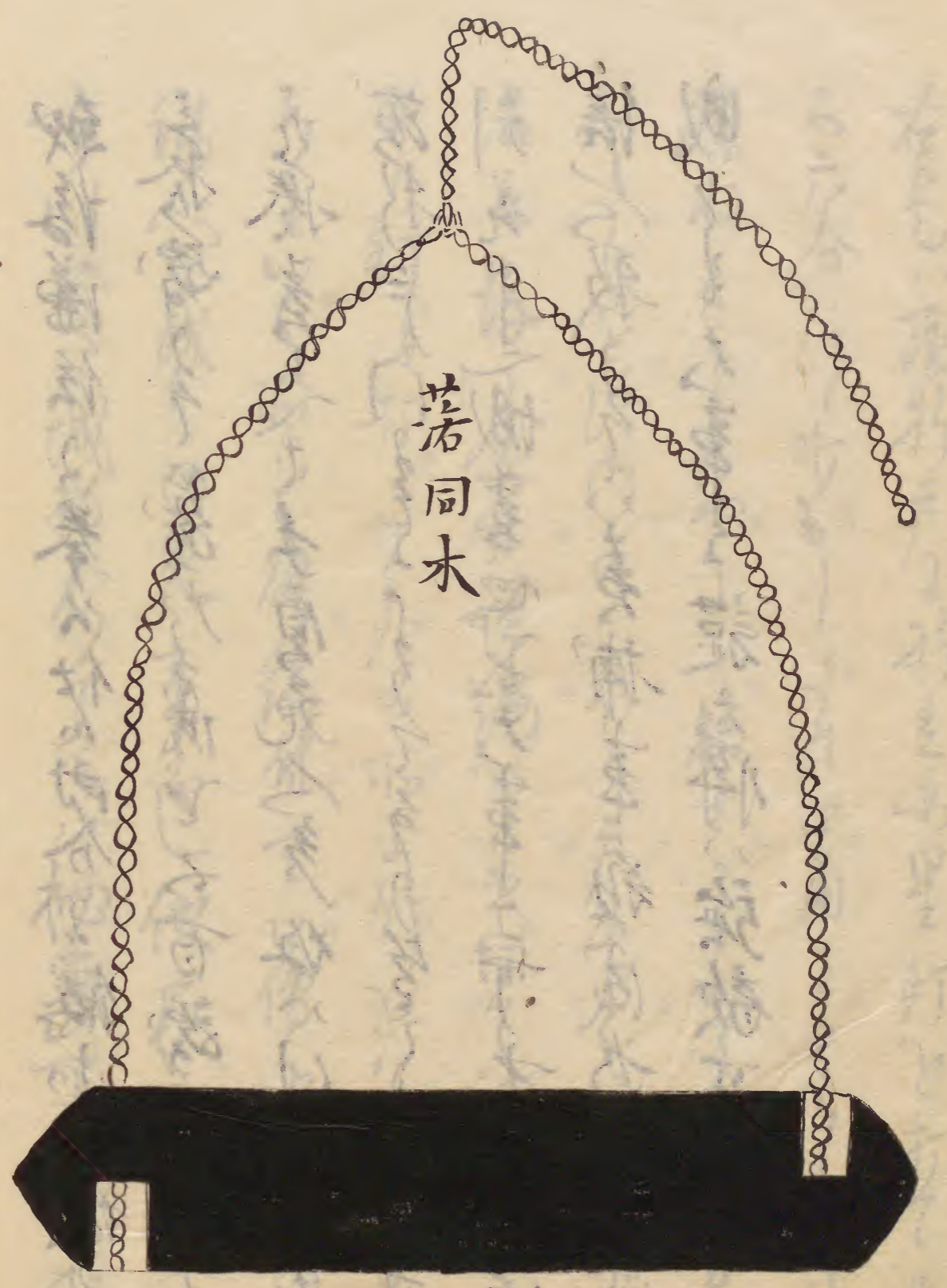


*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

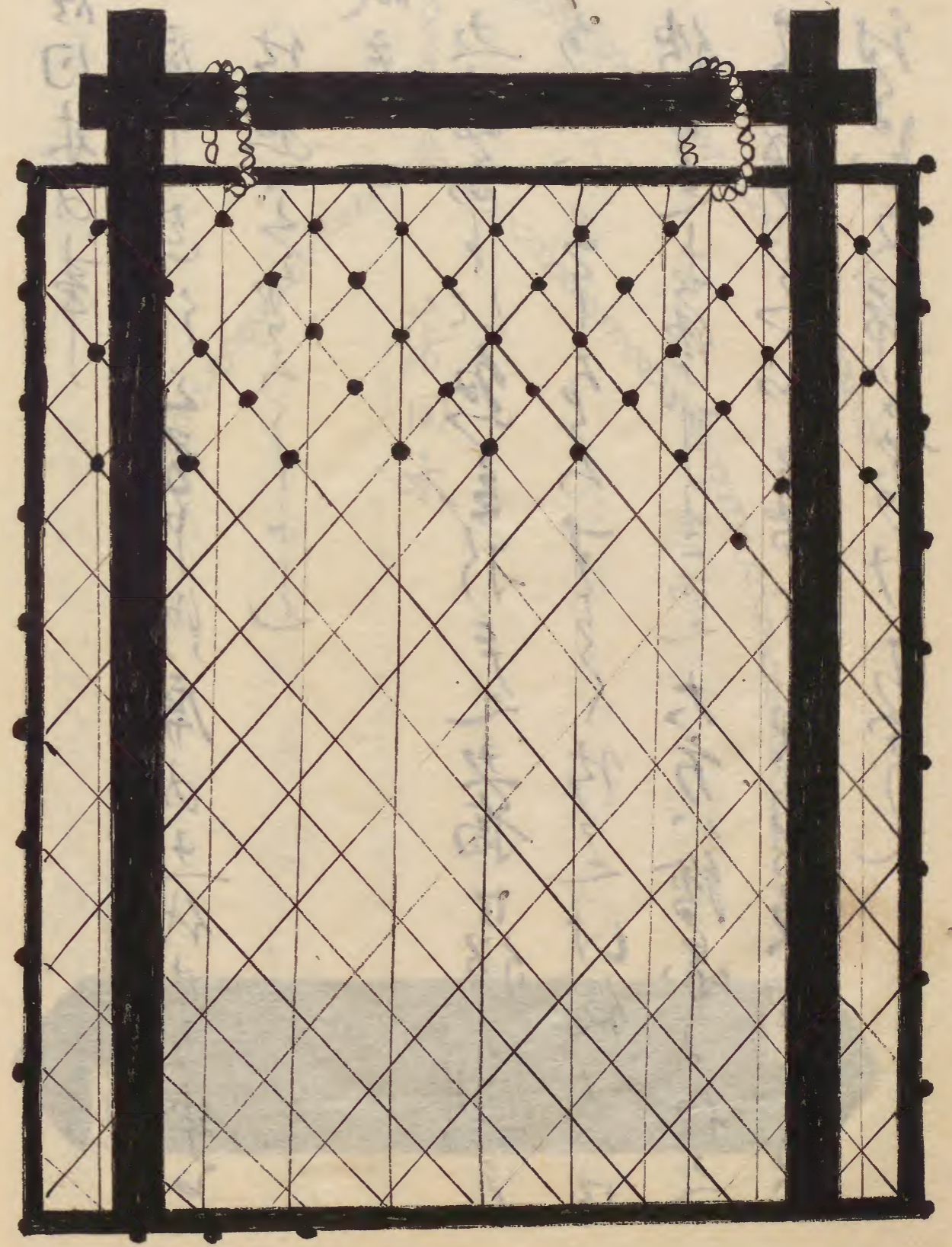
右是ハ藤原ノ事ナリ也星野ト打テ先  
トテ今迄ノ事ナリ也今ハ口角トテ今ハ  
歸ルナリ也今ハ能クナリ也今ハ先  
トテ今ハ能クナリ也今ハ能クナリ也  
能クナリ也今ハ能クナリ也今ハ能ク  
ナリ也今ハ能クナリ也今ハ能クナリ  
也今ハ能クナリ也今ハ能クナリ也  
今ハ能クナリ也今ハ能クナリ也今ハ  
能クナリ也今ハ能クナリ也今ハ能ク  
ナリ也今ハ能クナリ也今ハ能クナリ  
也今ハ能クナリ也今ハ能クナリ也

親後謙信ノ奉公仕合ノ飯山ノ城ノ首  
ニ於テ今ハ能クナリ也今ハ能クナリ  
也今ハ能クナリ也今ハ能クナリ也  
今ハ能クナリ也今ハ能クナリ也今ハ  
能クナリ也今ハ能クナリ也今ハ能ク  
ナリ也今ハ能クナリ也今ハ能クナリ  
也今ハ能クナリ也今ハ能クナリ也  
今ハ能クナリ也今ハ能クナリ也今ハ  
能クナリ也今ハ能クナリ也今ハ能ク  
ナリ也今ハ能クナリ也今ハ能クナリ  
也今ハ能クナリ也今ハ能クナリ也  
今ハ能クナリ也今ハ能クナリ也今ハ  
能クナリ也今ハ能クナリ也今ハ能ク  
ナリ也今ハ能クナリ也今ハ能クナリ  
也今ハ能クナリ也今ハ能クナリ也

一 右日本之事  
 一 屏より延引と申す此屏の土代女車と  
 仕懸と云ふ事  
 一 紋戸  
 一 此指のくに無き所は之を指す指の門の戸  
 ありといふ事なりすしと云ふは之に似たりは  
 傳へては傳へりといふは大方に繪あるは之  
 九指の不知は傳へりといふは之に似たりは  
 指の女車又指の女車に似たり







右紋三々口傳る事之紙面ハ雜戸  
 おろ方めろハ書法ハ一ト也

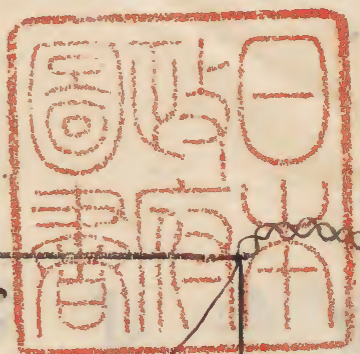
一ツハ我ハ信守トシテ二ハ行ハ行ハ  
 一のこのめねろハ行ハ行ハ行ハ行ハ  
 板ハ行ハ行ハ行ハ行ハ行ハ行ハ行ハ  
 二鉄砲請の板ハ行ハ行ハ行ハ行ハ  
 岸ハ行ハ行ハ行ハ行ハ行ハ行ハ行ハ  
 又ハ行ハ行ハ行ハ行ハ行ハ行ハ行ハ

一城の内行たもの事

一城の内屏の作たをいさげと二つを破てう  
の方とあるて屏の外へ投銃屏のきお  
てく言ふあをきんいしきえぬと  
てしと右の作きとせとおせゆひ  
るより極るこのえん又ハ銃砲  
と屏換したる時とてしる成す  
け故なるあやふなりとせし  
た方の事  
斗

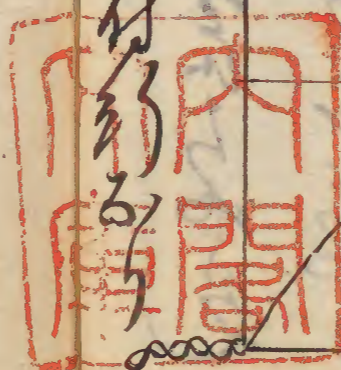
一 川報の擧げ之事

一輪をいさげとてしと能く  
のしと中と作らる又ハ銅  
らんのかのしとせしと  
てしとぬあやふなりと  
てしの方とあやふなりと  
てしとせしとせしとせし  
とせしとせしとせしと

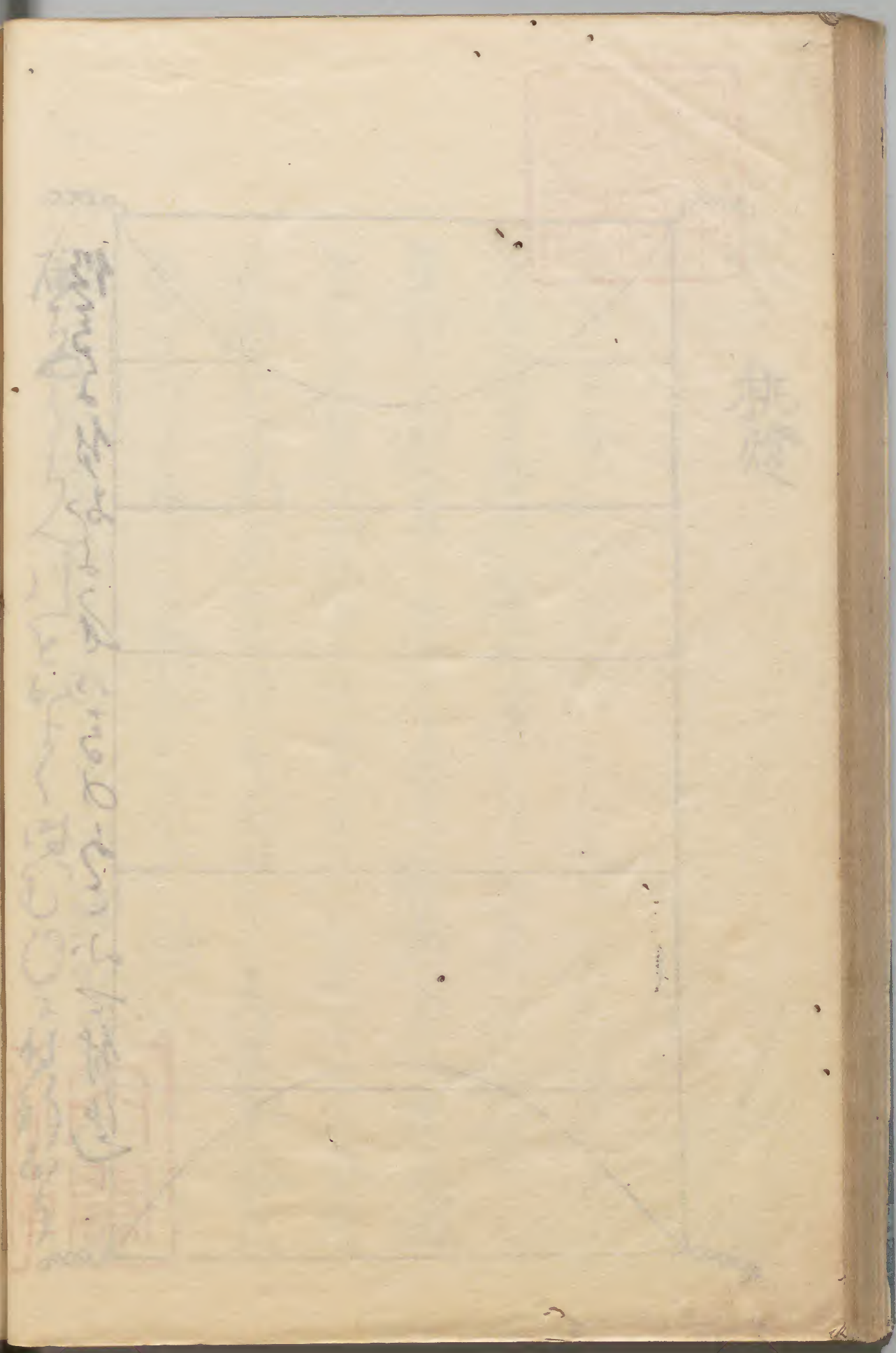
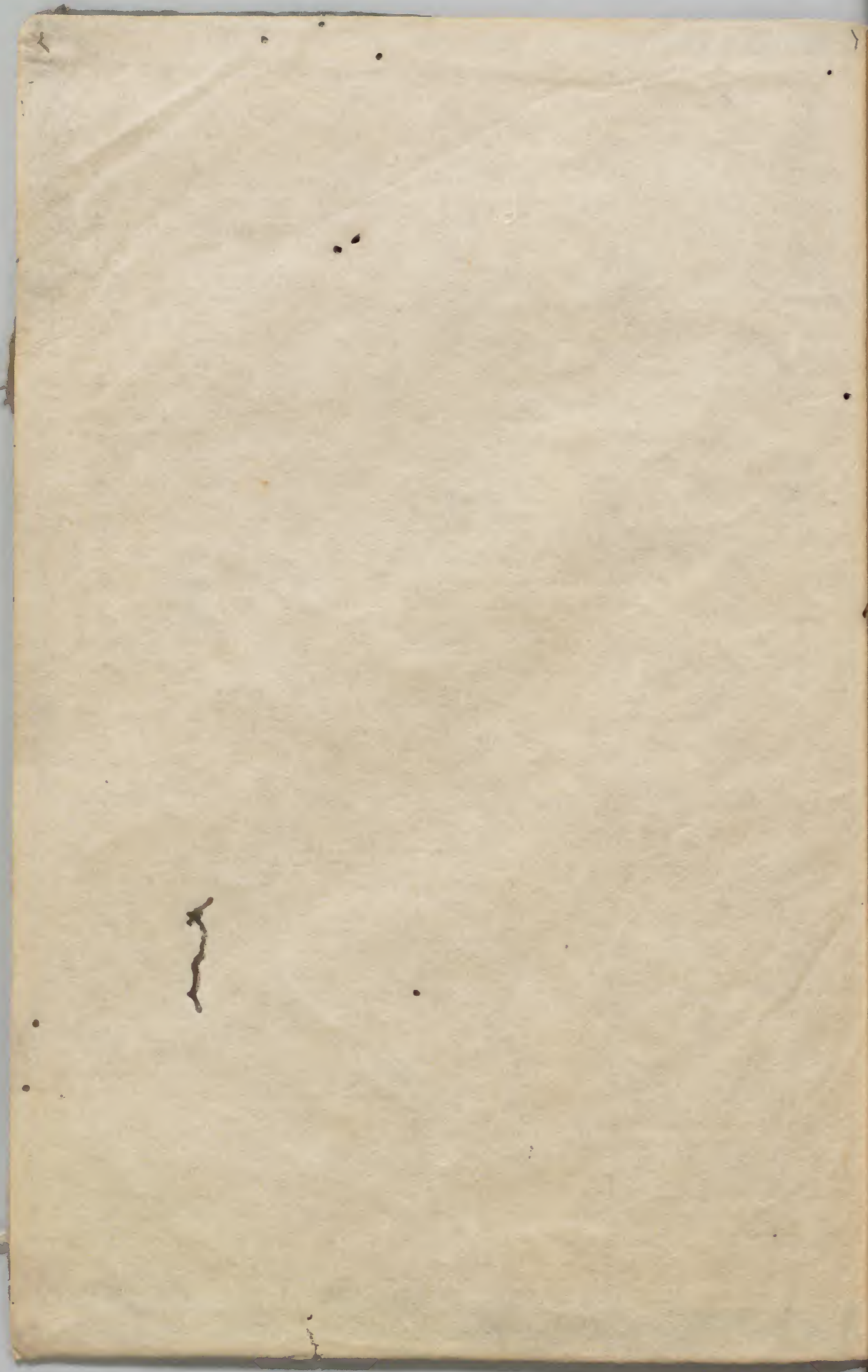


挑燈

<p>右の通りし川をわたりてはむらじりて        舟に乗りて川をわたりてはむらじりて        舟に乗りて川をわたりてはむらじりて        舟に乗りて川をわたりてはむらじりて        舟に乗りて川をわたりてはむらじりて        舟に乗りて川をわたりてはむらじりて</p>	



舟に乗りて川をわたりてはむらじりて



Handwritten text in a vertical column, likely a list or set of instructions, written in a cursive style. The text is difficult to decipher due to its orientation and the fading of the ink.

桃燈

